

上マージン
20mm

タイトルには、「特殊文字、機種依存文字、ギリシャ文字、“～”」などの文字は使用しないで下さい

欧文タイトルは、文頭の最初の1文字および固有名詞の初めの文字のみ大文字として下さい。下の例では、J,S,E は固有名詞として大文字です。

第13回 構造物の衝撃問題に関するシンポジウム論文集(2022年1月)

土木学会

(1行あける)

完全版下投稿和文原稿の作成例 ← ゴシック 14pt

(1行あける)

Instruction for A4 size camera ready copy for Journal of Structural Engineering

(1行あける)

土木太郎*, 建設花子**

Taro Doboku, Hanako Kensetsu

(1行あける)

*工博, 土木大学教授, 工学部土木工学科 (〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目)

** 博 (工), 建設大学准教授, 工学部建設システム工学科 (〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目)

(1行あける)

キーワード: A4判, キーワード記法, なるべく, イタリック体

明朝(斜体) 10pt

Keywords: A4 size, use Italic, if possible, for key words

(2行あける)

1. タイトル部分のレイアウト ゴシック 10 pt

(1行あける)

タイトルページのフォーマットはこの作成例に従って作成して下さい。ページはA4サイズとし、1行目左側に「第13回 構造物の衝撃問題に関するシンポジウム論文集(2022年1月)」、右端に「土木学会」と10ptの文字を使用して記載して下さい。

和文のタイトル文字にはゴシック体 14pt を使用します。以下、欧文タイトル、著者名、所属を上例に従って明朝体 10pt または Times 10pt の文字を使用して作成して下さい。なお、次節に示すタイトルに関する注意事項を遵守して下さい。

キーワードは日本語、英語の両方を3,4個記載し、それぞれ明朝(斜体) 10pt および Times-italic 10pt の文字を使用して下さい。

明朝 10pt

(1行あける)

1.1 タイトルに関する注意事項 ← ゴシック 10 pt

タイトルには、「特殊文字、機種依存文字、ギリシャ文字、“～”」などの文字は使用しないで下さい。

また、欧文タイトルは、文頭の最初の1文字および固有名詞の初めの文字のみ大文字として下さい。例えば上の例では、J, S, E は固有名詞として大文字です。また、「全角文字」は使用しないでください。

(1) 著者名に関する注意事項 ← ゴシック 10 pt

欧文姓名は、姓も名前も先頭の1文字のみ大文字として下さい。(姓をすべて大文字にしないでください)

(1行あける)

2. 本文のレイアウト

(1行あける)

本文は、上に指示するマージンの内側に、総幅52文字を25文字+スペース2文字+25文字の2段、50行で作成するものとします。文字フォントに関しては、次節3

に示す章、節、項の見出しはゴシック体 10pt で記載し、本文に用いる文字サイズは、明朝体 10pt、及び算用数字については Times 10pt を標準とします。

(1行あける)

3. 見出し(見出しが1行以上に長くなる場合には、この例のように折り返して下さい)

(1行あける)

見出しのレベルは章、節、項の3段階までとしてください。それぞれの番号には、**4. 章の番号 4.1 節の番号 (1) 項の番号**のようにゴシック体を用いて指定して下さい。章の見出しは、その上下に1行あけ、節の見出しは、その上のみ1行あけることを原則とします。ただし、ページや段が切り替わる部分は、見出しが最上部に来るように調整して下さい。

4. 数式および数学記号

数式および数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz \quad (1b)$$

のように本文とは独立している場合でも、 C_a , $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成して下さい。本文中に出てくる数式および数学記号は、そのサイズを本文の文字と同等のものとしてください。

..... 右マージン
..... 20mm

下マージン
25mm

5. 図, 写真および表

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページにおき、直接本文中に描画することを原則とします。図は、例えば図-3 とし、図のタイトルとともに図の下に、表は、例えば表-2 とし、表のタイトルとともに表の上に表示して下さい。図, 写真および写真の番号, およびタイトルは、それぞれ明朝 (または Times) 10 pt で記載して下さい。

謝辞 ← ゴシック 10 pt

謝辞を記載する場合には結論の後に記載して下さい。タイトル「謝辞」はゴシック体 10pt で記述し、謝辞の内容は明朝体 (または Times) 10 pt で記載して下さい。

付録 ← ゴシック 10pt

本文は、参考文献で終わるものとし、もし、付録を置く場合には、参考文献の前に置いて下さい。最終ページは、2 段組の両側の高さをなるべく同じ高さとしてください。参考文献は、この例のように、上付き右括弧付き文字で指定します。

表-2 表の作成例

試験体番号	板厚 (mm)	板幅 (mm)
1	12	100
2	15	200

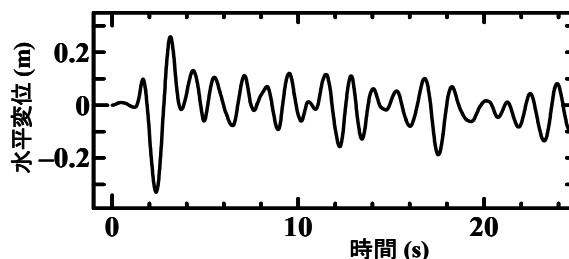


図-3 図の作成例

参考文献

- 1) Dafalias, Y. F. and Popov, E. P. : A model of nonlinear hardening loading, Acta Mecha., Vol.21, pp.173-192, 1975.
- 2) Y.C. ファン (大橋義夫, 村上澄男, 神谷紀生共訳) : 固体の力学/理論, 培風館, 1970.

最終ページの左右の段落はできるだけそろえて終わる

ページ数は4から8ページとする